

プログラム名	
樹木医から学ぶ 遠足で自然学習	
プログラムの概要・ねらい	
<p>◎遠足の機会を利用して、身近な場所に生きている樹木を知り、自分たちを取り巻く自然環境について関心を育みます。</p> <p>◎樹木の生体反応の観察を通じて、木や草花がヒトと同じ「生き物」であることを感じとります。</p> <p>◎樹林を観察することで、生き物の集団レベルでの生活の様子を知り、ヒトの集団生活のあり方について考える「きっかけ」を作ります。</p>	
プログラムの分野	
地球温暖化防止・エネルギー ごみ・3R 自然 生き物 大気 水 その他	
プログラムの対象者	
幼稚園 ・ 小学校低学年 ・ 小学校中学年 ・ 小学校高学年 ・ 中学校 特別支援学校（ 視覚障害 ・ 聴覚障害 ・ 知的障害 ・ 肢体不自由 ・ 病弱 ）	
対象人数(1回に実施可能な人数)	
100 名程度まで	
実施場所	所要時間
学校敷地内	※幼稚園については、原則1時間まで 約2時間
プログラムの実施に必要な準備物	
学校、園で準備が必要なもの	筆記用具(生徒児童園児各自)
団体で準備するもの	記録用冊子
プログラム実施に伴う安全上の注意事項、リスクの対処法 ※雨天時の対応など	
<p>観察中心(植物に手を触れるなどの行動は最小限)なので、通常の校外学習の際の安全管理に準ずるものと考えられます。実施場所固有のリスク想定などについては、これと別に行い、学校側の担当の先生と事前に話し合いを持ちます。</p>	

【プログラムの進め方】

	学習内容・活動	写真
導入	<p>◎身近な木を知ろう</p> <p>身近な自然に生きている木を知ります。具体的には、身近な樹木(約5種)について、それぞれの木にまつわるテーマと結びつけて名前を覚えます。その木の特徴を自分の言葉で表現したり、学んだ木の中から「自分のお気に入りの木」を選ぶ、といった要素を取り入れるのも良いと考えます。</p> <p>「木のテーマ」の例:</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「お墓の木」 ◆「まだら模様の河原の木」 ◆「カブトムシとシイタケの木」 	
展開	<p>◎「木のおもしろ現象」を見つけよう</p> <p>木に現れる興味深い生体反応に注目し、「木のおもしろ現象」と名づけ、易しいはなしを通して、その意味や原因を探ります。</p> <p>「おもしろ現象」の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「こんな姿にだれがした？(樹形の意味・原因)」 ◆「みんなを見つめる『目』(樹皮に現れる現象)」 ◆「木のご近所関係(樹林での生体反応)」 	
確認	<p>◎「〇〇の木ハンドブック」</p> <p>テキスト(当方作成)を用いて、観察の結果を残していきます。遠足先での実施であることを考慮し、小型の書き込み式テキストとし、ハンドブックとして保存可能な形にまとめます。</p>	

【プログラムのアピールポイント】

校外学習の貴重な機会を逃さず最大限に活かし、普段は見過ごすことの多い現象に子供たちの注意を向け、木が確かに「生き物」であるという感覚を身につけたいと思います。特に「樹林」での木の生き方には、日々集団生活を送る子供たちにとっても参考になる性質があり、「生きた実物」を目の前にして学ぶ貴重な機会になると考えます。

【授業を受けた先生の声】

- ◎「普段あまりに身近にあって、授業でもマラソンコースなどに利用している場所だが、これほど多くの種類の木があったことは知らなかった。見方が変わった。(丸亀城での実施例)」
- ◎「普段とは違う屋外での学習だったためか、いつもと違った熱心さで話に聞き入る子が多く見られ、驚いた。授業後の感想文でも、普段文を書かない子が積極的に文を書いた。」